# 第２回　人生支援計画　策定委員会　議事録

■日　時：令和２年１月 28 日　13:30～16:15
■場　所：ふれあいセンター　２階　第１・２研修室
■出席者：25 人（策定委員 10 人、市職員 14 人［市長含む］、傍聴１人）

◇開会

それでは、定刻になりましたのでただいまから令和元年度香南市人生支援計画第 2 回策定委員会を始めさせていただきます。はじめに、次第では副市長より挨拶をいただく予定となっておりましたが、市長に出席いただけるようになりましたので、清藤市長よりご挨拶申し上げます。

◇市長挨拶

令和 2 年になり最初の策定委員会となるが、坂本委員長はじめ委員の皆様には昨年に引き続き本年もよろしくお願いします。

市長就任以来､行政の仕事の大きな柱が､そこに住む市民の皆様の人生を支援することであり、市職員は市民のライフワークプランナーであるべきという思いでやってきた。国、県、市で様々な生活全般への応援施策があるが､市としてできることはしっかり取り組んでいくということが本計画の当初からの理念の一つである｡現在実施している民有財産に対する支援などを行政がすることは昔では考えられなかったが､これからの時代は人の生活に関して行政がどのようなところで、どれくらい支援をして、またどんな支援が相応しいかを常時、現在進行形で考えていかなければならない。そのためには、この策定委員会や部会が香南市にとっても大事なものになってくる。委員の皆様には活発なご意見を出していただき、この策定委員会以外の場でも、思ったことがあればそれぞれ市の担当部署などにお話しもしていただき､そういった意思疎通が人生支援計画の充実にも繋がってくるので、よろしくお願いします。

（事務局）

ありがとうございました。それでは議事に入る前に、本日の配布資料の確認をお願いします。委員の皆様には事前にお送りしておりますが、当日の配布資料としまして「資料 1-3（追加）第 4 回高齢期部会報告書」と令和元年度人生支援計画策定委員会スケジュールを机の上に置いております。資料は全てお揃いでしょうか。

なお、本日は委員名簿 4 番、5 番、6 番、7 番、 9 番、10 番の委員の方々は事前に欠席のご連絡をいただいております。また、本日は 10 名の委員に出席いただいており、半数以上の出席がありますので、本会が成立していますことを併せてご報告いたします。

それでは、これより会の進行を坂本委員長にお願いしたいと思います。坂本委員長、お願いします。

（委員長）
皆様、あけましておめでとうございます。お忙しい中ですが、全ての部会がまとまって議論する場ですので、どうかこの機会に皆様より忌憚ないご意見をいただき、検討もしていただきたいと思います。長時間にはなりますが、よろしくお願いします。

◇議事
Ⅰ．各部会の報告について
Ⅱ．数値目標及び KPI 評価（10 月末）について
Ⅲ．令和２年度 新規・拡充する事業について
Ⅳ．香南市人生支援計画（平成 27～30 年度）のまとめについて

■各部会の報告について【資料 1-1～1-3】
※資料に沿って各部会長より報告
①幼年就学期（資料 1-1）　→②成年熟年期（資料 1-2）　→③高齢期（資料 1-3）

◆意見交換
①幼年就学期部会からの報告について
（委員）
保育士の処遇改善を行っていくということだが、具体的にはどのようなことが検討されているのか。

（こども課長）
保育士不足に対応するため、保育士それぞれに応じた時間（フルタイムや短時間など）で雇用している。また、各所長や副所長から退職者や保育士経験者に声掛けしてもらっている。令和２年度からの会計年度任用職員への移行で、臨時職員の賃金は少し上がるようになる。

（委員）
これまでも問題になってきているが、制度的に臨時職員が継続して雇用できないことで保育士の確保が難しかったと思うが、会計年度任用職員の制度ではそういったことが解消されるのか。

（委員）
これまでのように一ヵ月間雇用が切れることはなくなるが、あくまでも契約は一年間。同じ方を引き続き雇用することも可能。ただ、運用として他市町村と同様に行政職の臨時職員のフルタイム雇用は考えていないが、保育士に関しては本人が希望すればフルタイムでの雇用を行う。もちろん短時間を希望すれば、それも可能。ただし、これは制度改革によるもので香南市が独自で

行うことではない。

（委員長）
人口減少で子どもの数も減っているが、保育士も不足している。保育士の処遇についてもどこの市町村でも同じ問題を抱えている。会計年度任用職員の制度に移行して、そういった問題の改善が図れたらよいと思うので、市には制度の適切な運用をお願いする。

②成年熟年期部会からの報告について
（委員）
資料 1-2 の８ページのウォーキングについて、吉川町まちづくり協議会が主催しているような書き方になっている。協議会が支援はしているが、主催ではない。

（健康対策課長）
健康推進員の吉川支部が主催で、まちづくり協議会には予算面などから支援してもらっている。

（委員）
自身が関わっていることは分かるが、それ以外の部分では実情が分からない。そういう意味では策定委員会の委員の皆さんの意見もある程度限定されたものになる。その点、行政の立場の皆さんは様々なデータを持ち、それぞれ分野ごとに深く事情を把握している。私たちがその世代の市民がどういった課題を持っているかを客観的に把握できているのか不安がある。委員個人の主観ではなく、一般市民の課題を客観的に捉えられるような仕組みづくりが必要ではないだろうか。

（委員長）
各部署で事業によってアンケート調査などを行い、年代別にフィルターをかけ様々な課題が見つかったりしているので参考にできることはある。そういった行政側が持っている市の課題も各部会に下ろしてもらえたら客観的な視点に繋がる。

（委員）
資料 1-2 の８ページの起業のアドバイスについて、子どもが県外の大学を卒業し帰ってくる際に県内企業とのマッチングがうまくいかなかったり、卒業してすぐに起業も難しい。具体的にどのようなことが検討されているのか。

（地域支援課長）
人生支援計画から出てきた意見ではあるが、“しごと”という面で産業振興計画（商工水産課）へ繋いでいく。現時点では、具体的に誰を呼んで講演会を行うかなどは決まっていないが、IT 企業をはじめとする企業誘致などは既に行っており、次年度以降も取り組んでいくようになって

いる。また、小中学生のうちからしっかりと企業の紹介を行い、香南市でも働く場があるということを知ってもらう取り組みは産業振興計画に盛り込まれている。起業に関しても、空き店舗の活用など少しずつではあるが具体的な取り組みも始まってくる。U ターンも含め、香南市で働ける、働くといったことは本計画と産業振興計画が一緒になって考えていきたい。

（委員）
産業振興計画の策定委員会でも、農業や林業をはじめ各分野での企業の体験や学習について、既に行っているものや今後取り組んでいかなければならないことなど、部会を超えた共通の取り組みとして学校にも PR していこうとしている。

（委員長）
企業誘致や起業など県外の事例を見ると、広大な土地は在庫を置きやすいということで、中古車や家具のネット販売が注目している。在庫の置き場所として地方に目を付けている企業は多い。また、大学生のインターンシップでは、主に農業や林業分野で滞在場所など全て無料で提供するので来てくださいというところも増えてきている。農林水産省と連携を図っているところもあるので、そのような PR もできればよいのではないかと思う。

③高齢期部会からの報告について
（委員）
資料 1-3 の 2 ページと資料 1-2 の 4 ページにごみ出しの問題があるが、共助といっても早朝のことになるので難しい面がある。ごみ出しの時間を近所の方や介護等の事業所が手伝える時間帯まで遅くするといったことを早急に考えなければならない。

（委員）
この問題は、本会に先立って行われた幹事会でも話をしているが、清掃組合のごみの受入時間の問題も出てくる。一つの方法として、例えばではあるが、特定のごみステーションだけ収集時間を 10 時や 11 時までにするということは検討できないか、前日から保管できる場所は作れないか、全ては無理でも少しでもできることから検討が必要。

（委員長）
広島はごみステーションに鍵がかかるようになっていて前日から出せる。姫路では 20 時から 22 時までの間でごみを出し、23 時頃に回収されている。それぞれの事情によって様々な工夫がされているので、他の市町村の取り組みも参考になる。

■数値目標及び KPI 評価（10 月末）について【資料 2】
◆事務局からの資料説明

中間評価を行うにあたり、年度途中でまだ実施されていない、もしくは年度後半に回数等のウエイトが高い事業もあり、10 月末時点の数値が目標の何％かだけで評価を行うことは適切ではないことから、1 ページにある評価基準（進捗状況という見方）に基づいて顔文字で表記している。また、今回は計画策定からの４年間を総括するため、各指標の目標値の下に一行追加し、平成 30 年度までの単年度の達成状況と 4 年間トータルでの達成度合いを記載している。この欄では ABC の記載があるが、部会事務局長からの報告はあくまでも今年度の中間報告。顔文字での表記を見てください。

※各期ごとに項目を絞って各事務局長より報告
①幼年就学期（P2～10）　→②成年熟年期（P11～19）　→③高齢期（P20～23）

◆意見交換
※以降で出てくる№は資料 2 における指標№を指すもの

①幼年就学期部会からの報告について
（委員）
№8 に関連して、子育て支援センターや香南市子育てガイドブックなど、こういった仕組みづくりをしていかなければ、なかなかお隣同士で話ができない。WEB や SNS での情報収集について、香南市でも県外でもニーズはあるが、その発信についてのノウハウがない。新聞等でも見られるが、子育て情報を求めている方は多いので、そういう体系を共有していくことは子育て支援や人口を増やすといった点において非常に重要だと感じている。

（委員）
№23、24 の不登校児童生徒の発生率について、数値を見れば多く感じるし心配される方も多いが、先生方が家を訪問するなども含め実際はかなり手厚い支援をされている。数字だけでは分からない面があり、現場はしっかりと取り組んでいる。是非そこは知っておいてもらいたい。

（委員長）
不登校児童生徒といっても、様々なケースの子どもがいて一括りにはできない。その上で、学校側も手厚い支援をしているということは知っておかなくてはいけない。

（委員）
№14 や 15 でスポーツに関する指標はあるが、子ども達の文化活動についてはどうやって把握しているか。

（生涯学習課長）

№16 夏休みこども教室の開催では目標以上に回数も多く実施されており、申し込みもすぐに定員に達する教室も複数あるなど、子ども達の文化活動についても取り組んでいる。

（委員長）
今後に向けた具体的な取り組みの欄にも、人気のある教室の複数開催を目指すなどあるので、引き続き取り組んいってもらいたい。

②成年熟年期部会からの報告について
（委員）
№31 社会参加のための外出支援サービスといった市独自事業に加え、社会福祉協議会でも障害者の方が地域に出ていく（買い物やお花見などの社会参加など）支援活動もしている。年間で 133 人といった実績も出ている。市事業と社会福祉協議会事業で利用者が重複していることもあるだろうが、参考に社会福祉協議会の事業の実績も出していいのではないか。

（福祉事務所長）
ここに出ている数字は重度障害者を対象とした数字となっている。今後は社会福祉協議会のそういった事業の数字も出していければと思う。

（委員）
№50 特定健診の受診については、個別に受けた健診もカウントされるのか。また、数字は国保の場合だけか。

（健康対策課長）
医療機関での個別健診は後日データが回ってくるので最終的な集計時には数値に表れる。特定健診というのはあくまでも国保被保険者を対象としているものであり、お勤めされている方など国保以外の方も、会社を通じて案内や受診券が届き、健診を受けると保険者の方からデータが返ってくるが、この指標にはカウントされない。がん検診（5 種）については保険種別を問わず市から案内を出している。

③高齢期部会からの報告について
（委員）
最近は AI や IoT など随分技術的にも進んできて、今後はどこまでどう変わっていくだろうかといった中で、SDGs なども入れながら、人生支援にどこまで加味していくのか。福祉についても介護ロボットなど、“ひと”ではなくロボットになってくる。10 年後には今ある職業が半分以下になり、新しい仕事がたくさん出てくる。自分たちの 10 年後もそうだが、成年期の方たちの 10 年後 20 年後も考えていかなければならない。時代の変化のスピードが上がっている。

（委員）
　総合戦略や産業振興計画など 5 年計画となっているが、本計画は策定した際に計画スパンは定めていない。ただし、後の議題にもなるが、本計画でもこれまでの取り組みを総括し令和 2 年度から 5 年間の数値目標などを改めて設定していくように考えている。そういう意味では人生支援は長いスパンで考えるが、短期的、中期的な数値目標の設定については 5 年間で見ていく必要があるのではないかと考え、今回の総括に繋がっている。

（委員）
　マイナンバーの制度は始まって数年が経つが、マイナンバーカードを使用することで受けられるメリットはどれくらい増えているのか。

（委員）
　コンビニでの住民票発行などがもうすぐ始まるが、これはマイナンバーカードが必要。この数年で多くはないが徐々に利用ができるようになり、以前に作ったカードが新しいサービスを受けられないということはない。10 年（未成年 5 年）での更新もある。国も昨年から再度マイナンバーカード取得について推進している。

～休憩～

■令和２年度 新規・拡充する事業について【資料 3-1～3-3】
※資料に沿って各事務局長から報告
　①幼年就学期（資料 3-1）　→②成年熟年期（資料 3-2）　→③高齢期（資料 3-3）

◆意見交換
　①幼年就学期部会からの報告について
（委員）
　ファミリーサポートセンター事業の拡充について、「にこなん」「にこにこルーム」それぞれの受け入れ時間まで協議は進んでいるのか。

（こども課長）
　「にこなん」は月～金の開所時間内の 15 時まで。のいちふれあいセンター内の「にこにこルーム」についてはまだ協議中。

（委員）
「にこなん」で子どもを預かる場合、15 時以降は場所を移動しなければならないということか。

（こども課長）
これまでは場所が自宅に限定されていた中で、公共施設等の使用はできないかという意見があり、にこなんの場合は開所時間内であれば可能ということになっている。遅い時間での対応を求められる場合には、今のところはこれまで通り自宅でお願いすることになる。

（委員）
ファミリーサポートセンターができた経緯（地域での子育てを支援する）から考えると、公共施設の利用については首を傾げるところもあるが、幅広く対応してほしいのがニーズといったところだろうか。

（委員長）
選択肢の一つにはなると思う。実際にやってみて、利用者数の検証も行いながら対応を考えていかなければならないのではないだろうか。

②成年熟年期部会からの報告について
（委員）
KPI において複数の期にまたがる「運動習慣」の指標と高齢期への備えというところは関連する部分だと思う。運動習慣の目標への進捗状況が良くない。より一層各期共通の啓発をしていくことが高齢期への備えにも繋がってくるのではないか。

（健康対策課長）
運動習慣の項目は特定健診の中での問診項目から集計している。特定健診の対象者以外でもサークル活動や趣味の中で継続的に運動している人は多くいると思われるが、そういった方の数を把握する手段が今のところない。事業によってアンケートをして一定の数が把握できることもあるが、毎年継続していく KPI としての数値の把握方法としては、特定健診の問診以外に手段がない状況。今後は目標の設定や指標の見直し等も含めた検討が必要だが、実際のところ若い世代でもスポーツクラブを利用するなど、運動習慣のある方はもっといるため、そういったところを含めると目標値に近づいてくると思われる。

（委員長）
数値目標としては健康対策課によって集計されているものだが、スポーツ事業の実施という点では生涯学習課になると思う。

（生涯学習課長）
高齢期への備えとしては部会を超えた共通課題として取り組んでいく必要があることは成年熟年期の部会報告の中でもあった通り。ここでは、免許返納してからではなく元気なうちから公共交通機関を利用する習慣をつけるなどの取り組みによって、高齢期になっても慌てずに引き続きライフスタイルは保たれることに繋がる。また、若いうちから運動習慣をつけておけば高齢になっても元気で体が動き日常の生活が送れる。介護度が上がらなくて済むなどもある。手前からできることを行い高齢期に備えることを今後も引き続き議論していく旨を資料に掲載した。

（委員）
運動の指標については高齢期でも、グランドゴルフを熱心にやっている委員が、その活動が指標には表れないことを以前から提起している。そこは前向きに検討していただかないと、自身の活動が評価されていないことを不満に思っているところもある。せっかく人生支援として KPI も設定してやっているので是非反映してほしい。指標として出せないのであれば参考数値という形でも構わないので目に見えるようにしてあげてほしい。

（生涯学習課長）
他のスポーツにしても毎朝のウォーキングにしても個人での取り組みはなかなか数字に表せられない（把握できない）部分もあるが、一定皆様が納得できるような数値の出し方も検討していきたい。

③高齢期部会からの報告について
（委員）
R2 年度新施策として市営バス利用お試しセットの配布が 65 歳到達者とあるが、まだここは検討段階で 75 歳や他の年齢になるかもしれない。何らかの節目にと考えており、配布することで市営バス利用のきっかけづくりを行っていきたいという考えである。

（委員）
R1 年度からの新施策にある住民主体の移動・外出支援の受け皿づくりについて、見守り付きとはどのようなことを指すのか。見守りとは行政なのか講習を受けた地域住民なのか。

（高齢者介護課長）
地域住民（団体）が運転することでの移動支援の形であって、見守りする方が一緒に乗ることではない。地域の方が送迎するという意味での見守り。料金が発生する福祉有償運送では二日間の講習の受講が必要となる。介護保険の範疇での送迎では講習の定めはないが半日程度の講習を受講してもらっている。

（委員）
　市営バスなどの公共交通機関よりも小回りが利き、ちょっと誘い合って出掛けるといったことには非常に良いと思う。運転手の確保は大変かもしれないが、出掛けたいときに出掛けられることはありがたいことなので頑張ってほしい。

（委員長）
　こういった取り組みは各地で始まっておりワンコインでの予約制タクシーのような形であったり、結ぶ場所も自宅周辺や自宅と駅を一日何便かなど少人数（5～6 人）での移動手段はできてきている。

■香南市人生支援計画（平成 27～30 年度）のまとめについて【資料 4】
◆事務局からの資料説明
・本計画（平成 27～30 年度）総括に至った経緯
　人生支援計画には上位計画として「香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略」がある。これは平成 27 年度～今年度までの 5 ヵ年計画を第 1 期とするもので、5 年が満了する今年度は、これまでの取り組みを振り返り、その成果や課題を踏まえた上で第 2 期の計画策定に向けて動いている。本計画は、このまち・ひと・しごと創生総合戦略の“ひと”に関する計画の柱に位置付けられており、1 期、2 期という期間の定めはないが、上位計画の総括を行うにあたって同じタイミングで一度、総括を行うこととした。

・資料 1～4 ページについて
　本計画の基本的な考え方や総合戦略との関係、全体の概要図などを説明している。これは皆様に策定委員をお願いする際にご説明しているので詳しい説明は省略するもの。なお、3 ページの取り組み体制についてなど、計画策定以降で変更している箇所もある。

・資料 5 ページについて
　上記の体制の変化や取り組みについて、時系列でまとめたものが 5 ページ。本計画は平成 25 年度、26 年度の約 2 年間で土台づくりをし、平成 27 年度に策定した。策定以降、「ライフステージに応じた切れ目ない支援」を「通常施策」、また、総合戦略の策定の背景にもある人口減少問題について、その解決に向けた移住定住や出生率の上昇に向けた施策を「重点施策」として、人口減少問題を考える部会の立ち上げも行った。この部会では、移住定住のほか子育て支援、就労支援など多くの分野での支援策を検討し、香南市ウェルカム移住・定住促進事業やファミリーサポートセンターの設立、地域おこし協力隊制度を積極的に活用するなど人口増加に繋がる事業に繋げることができた。
　平成 29 年度中には本計画を着実に推進できる体制を強化するため、期別部会の設置の検討を

はじめ、平成 30 年度より現在の形でもある 3 部会が立ち上がった。各年度に「新たな事業等への取り組み」として新規拡充事業も載せている。

・資料 6～10 ページについて

各期別の取り組みの成果と課題の総評を記載している。各期において、まず KPI 評価書にも記載している基本方針があり、枠線内でその期の個別目標に係る事業をいくつか抽出して成果と課題、また、今後に向けた取り組みなどを記載している。

資料の中に出てくる数値については、本日の資料 2 でご確認いただきたい。

・幼年期（6 ページ）について

妊産婦の安心で安全な環境づくりの一つとしてパパママ教室、子育て家庭に優しい環境づくりとして地域子育て支援センター事業をピックアップしている。パパママ教室では徐々に参加率も上がり、参加者のニーズに沿ってプログラムを変更しながら取り組んでいる。また、地域子育て支援センター事業では、利用者数がこの 4 年間で約 2 倍に増え、子育て家庭に対してきめ細かで柔軟な対応と幅広い支援体制を構築するため、支援センターの拠点化を進め、令和元年 7 月に総合子育て支援センター「にこなん」が開所となった。今後は相談窓口の周知などの課題に対し、保育所、幼稚園との連携や子育て情報サイトの活用を行い、引き続き子育て家庭に優しい環境づくりを行っていく。

・就学期（7 ページ）について

枠線内の中段、地域学校協働本部の小中学校への設置だが、当初は令和 2 年度までに市内全小中学校への設置することを目標にしていたが、一年前倒しで今年度に全校設置となった。地域の人材を積極的に活用し、学習活動、部活動や地域活動などの支援を行っているが、さらなる支援充実のため、引き続きボランティアの募集、呼び掛けを行っていく。下段に移り、すべての子どもの成長を保障する環境づくりの一つとして、新規不登校未然防止に向けた取り組みを行っている。本市の不登校発生率は小中学校ともに県の発生率と比較すると高い数値が出ていたが、本市は、昨年度と今年度の 2 年間で文部科学省の「魅力ある学校づくり調査研究事業」の指定を受け、新規不登校の出現を抑制する先導的な実践を行ってきた。数値だけでは計れない面もあるが、徐々に変化の兆しも見られるようになっているとも聞いており、小学校の平成 30 年度は県の平均を下回っている。指定期間が終了する次年度以降も現在不登校である子どもへの支援と併せて、新規不登校を出さない、未然に防止する取り組みを行うことで全体の不登校児童生徒数の抑制を図っていく。

・成年期（8 ページ）について

まず、出会い、新しい家庭づくりの支援として、市主催での婚活セミナーや恋いめぐりあい応援事業による市内団体への婚活事業の支援を行ってきた。中でも、平成 29 年度からこの事業を

活用し、「よりあい にこ家」さんという団体が結婚相談窓口を開設しているが、この秋には相談者から２組がご成婚されたという嬉しいご報告もいただいた。しかし、目標とする支援数やイベントなどの参加人数には届いていないこともあり、引き続き出会いの機会を増やし、それに対する参加を呼び掛ける取り組みを行っていく。

当初から本計画の重点施策としてきた移住定住の推進も、期別でみるとこの成年期の中で取り組んでいる。これまで、県外移住相談会への参加や近隣市町村と連携した移住体験ツアーを行うとともに、移住を検討されている方が利用できる「お試し滞在住宅」の整備や「空き家バンク制度」を導入してきた。移住専門 HP「香南住む～ず」のアクセス数も増えている。これら施策について、市広報やケーブルテレビなどを通して地域への情報発信と共有を行い、地域と一体となった受け入れ体制強化に取り組んでいく。平成 30 年度からは香南市の暮らしと仕事を体感してもらう「ワーキングホリデー」にも取り組んでおり、受入事業所数の増加を図るなど、今後も様々なところと連携し移住者や関係人口の増加を図っていく。

・熟年期（9 ページ）について

いきいきと健やかな人に優しいまちづくりの推進などを目標とし、健康増進に向けた取り組みをピックアップしている。特定健診受診率について、年度による増減が大きく、分析の結果、実施場所の影響によるところがあるとのこと。メタボの割合が県や全国と比較して高い要因が就寝前の食事、飲酒量、間食の頻度の高さがあることなども分かっており、場所の検討と同時にセット健診や休日健診の実施、ゴミ集積所への掲示や健康パスポートを活用するなど様々な受診勧奨を行い、受診率の向上に取り組んでいく。

また、運動習慣について、やはりお仕事をされている方は時間的にゆとりもないという方が多いようで、他の年代と比べて低い数値となっている状況。成年熟年期部会の次年度以降の取り組みの中でもあったように、ウォーキングの推進を図っていくなど健康増進に向けた啓発を行っていく。

・高齢期（10 ページ）について

中段にある配慮が必要な人、誰もが安心して生活ができる地域社会の形成支援の一つとして、認知症に関する様々な取り組みも行ってきた。その一つに認知症サポーター養成講座があり、これまでに学校や職域等で開催された受講者の累計は 3,078 人に上る。認知症に対する正しい地域の普及は進んでいるが、一方で、キャラバンメイトと呼ばれる養成講座の講師役となる方の固定化といった課題も出てきている。新たな人材育成や現在活動されていないキャラバンメイトの方への働きかけにも取り組んでいく。

また、シルバー人材センターについて、近年では高齢になっても職があり、現役で仕事ができるといった情勢の変化もあり会員数は伸び悩んでいる。就労の確保だけでなく、生きがいづくりといった点でもシルバー人材センターは必要不可欠であるとの共通認識のもとで行政も一体となり研修会開催など会員確保に努めていく。

・資料 11、12 ページについて

本日の資料 2「KPI 評価書」にも記載した全ての指標の４年間の達成度合いについて表にまとめている。それぞれ、各期の個別目標ごとに事業を分け、ABC 評価の個数を出し、12 ページの一番下で合計を出しているが、KPI 評価書にある 72 事業のうち A 評価は 33、B 評価 26、C 評価 2、数値目標を持つことが適切でないとされる※の事業が 11 となっている。

・資料 13～18 ページについて

これまでの本計画での取り組みを広報誌で紹介してきたものを一部ではあるが抜粋して載せている。ここまでの話と重複する内容になるので、説明は省略する。

・資料 19 ページについて

4 年間のまとめを行っている。再度になるが、本計画はまちひとしごと創生総合戦略の“ひと”に関する計画の柱に位置付けられており、毎年度、改善や見直しも含めバージョンアップを図りながら支援策の充実に取り組んできた。本市の人口を増やすという最終的な目標に向けた重要施策として、移住定住促進事業については、相談窓口を通じた県外からの移住者数は年々増加している。出生数や出生率などは施策がすぐに数値に表れるものではないが、不妊治療への助成や第２子保育料無料化などの出産や子育てに関する支援策の充実も図ってきた。

KPI として抽出した 72 事業のうちこれまでの達成度合いが A 評価となっているのは 33 事業で半分以下と、この達成度合いは決して高いとは言えない状況であり、これらを引き上げるためには、各部会を中心に各期の課題を掘り下げ、3 部会が課題を共有し、人生をトータルでサポートする体制をより一層強化していかなければならない。同時に、課題解決に向けた施策の在り方や必要性の検証を行い、施策の新規・拡充や見直しを住民と行政が一緒に作りあげていくことが重要だと考えている。これらを踏まえ、本計画では、3 部会制を継続していく中で、市民のニーズに沿った施策の充実を図るとともに、それら施策の実効性を高めるため各部会が連携した取り組みを引き続き行っていく。

・資料 20 ページについて

参考資料として、本計画にとっても重要となる本市の人口推移や自然増減、社会増減といった数値をまとめた資料を総合戦略からの抜粋ということで載せている。

◆人生支援計画（平成 27～30 年度）のまとめへのご意見

（なし）

（委員長）

この内容について、もしくは全体を通して今すぐのご意見がなければ終了の予定時刻も過ぎているので、何かあれば各事務局等へ個別の質問やメール等でお伝えいただきたい。事務局も委員

からの個別の質問があれば対応をよろしくお願いします。

■その他について

◆事務局より令和２年度のスケジュールについて説明

今後、年度末にかけて次年度以降（令和２年度から令和６年度）の５年間の目標を設定していく。それと同時に、本日の策定委員会でのご意見等も踏まえ、見直しが必要な指標などの変更等を行っていく。なお、目標設定にあたっては、まち・ひと・しごと創生総合戦略との整合性を図っていく。その後、4 月に入り今年度末の実績をまとめた上で各部会を開催していただき、策定委員会としては、5 月下旬頃に次年度第一回目として開催を考えている。スケジュールが出来次第、改めて皆様にお伝えする。よろしくお願いします。

（委員長）

事務局から説明のあったように、KPI の評価の中から課題も見つかりながら、新しい施策や継続しなければならない事業も出てきていると思う。こういったことを私たち委員が検討し、次に繋げていきたい。また、こういった地域との関わり方の仕組みができると、次は地域自体も繋がってくる。元々は人口を増やすという目的で策定された計画だが、地域の絆というものは大事なものなので、地域が繋がると様々なことに対応できる。例えば、もし今回のような新型肺炎といった問題が入り込んできた時に地域が分断されているか、繋がっているかは大きな対応力の差にもなってくる。私たち高知県は震災という問題も抱えている。そういうことについても地域が繋がっていくということは大事ですが、それも市の施策を通じて繋がっていくものだと思うので、委員の皆様は今後もよろしくお願いします。

◇閉会（副市長）

本日は長時間に渡りありがとうございました。本会では４年間の取り組み状況もありました。そしてこれからの５年間の KPI や様々な施策を皆様と一緒に考えていかなければならない。行政の職員は継続していくことに関して強い面があると思っている。一方で、改善をしていくことについては弱い、もしくは一歩下がるところがある。今後は皆様のご意見もいただきながら、どういった形で課題を捉え、KPI の設定においても回数は継続で計っていけるが、参加人数などを数値目標にすることによって、なぜ増えたのか、減ったのかを考えることにより次の施策や改善が生まれてくるのではないかと思っている。産業振興計画などもそういった考えの下に動いている。皆様から市民目線での厳しいご意見もいただきながら、しっかりと取り組んでいきたいので、今後も何卒よろしくお願いします。